

公益法人 第3期

2013（平成25）年度

事業報告書

2013年4月1日から

2014年3月31日まで

公益財団法人

ベルマーク教育助成財団

(1) 参加団体・学校

参加団体・学校は2014年3月末現在27966で、前年度比136のマイナスになりました。世帯数では約845万世帯になります。参加児童・生徒数は約952万人で、この1年間で19万人ほど減りました。この中で、2006年度から参加できるようになった大学、公民館はいずれも少しずつですが、13年度も増加しました。年度末の学校種別の内訳は以下の通りです。

	(参加数)	(全国総数)	(参加率)	(増減数)
小学校	14774	21132	69.9	-81
中学校	6583	10628	62.0	-54
高校	1170	4981	23.5	+2

幼稚園・保育園、大学、公民館等の内訳は以下の通りです。

	(参加数)	(増減)
幼稚園・保育園	5217	-18
大学	84	+8
公民館等	131	+11

※小学校の参加率は69.9%と、前年度の69.2%より増えていますが、分母となる学校数が減ったことが理由です。

(2) ベルマークの集票点数

2013年度の1年間の集票点数は5億2739万点で、前年度実績を1660万点上回りました。伸び率は3.3%でした。2007年度以来7年連続して増えており、5億点超えは11年度から3年連続です。運動開始当初からの累計は258億9951万点です。

(3) 教育設備品購入額

年間のお買いものの総額は5億1459万円で、前年度を1458万円ほど上回りました。累計245億3732万円となります。

(4) 東日本大震災の被災校援助事業

【2013 年度当初事業】

2013 年度当初は岩手、宮城、福島 3 県の 69 の中学校を対象に、1 校当たり 30 万円のバス代支援をしました。各校が希望する設備品・教材の寄贈も継続し、3 県の 115 の小中学校に、60 万円～10 万円相当の支援を実施しました。

【追加支援事業】

大震災にともなう原発事故の影響がなおきわめて深刻な福島県に絞って、追加支援をしました。限られた支援資金のもとで、財団の体力に見合い、かつ、現地の状況と要望に応じたメリハリのある事業を行うとの方針からです。福島県の小・中学校長会の協力を得て支援対象校を決め、50 小・中学校に 30 万円～15 万円相当の教育設備品・教材を贈りました。

当初と追加を合わせた 2013 年度の支援事業は、3 県で延べ 234 校を対象に、6040 万円相当となりました。

これで、大震災から 3 年間の支援は、延べ 970 校、計 3 億 3500 万円相当にのびります。

【友愛援助寄付】

ベルマーク運動参加校・団体が自分のところのベルマーク預金を取り崩して寄付するのが友愛援助寄付と言います。大震災向けの友愛援助寄付は、3 月末までの 1 年間で 335 件、813 万円集まりました。震災からの全寄付は 2435 件、8612 万円です。この友愛援助寄付は今後も、継続して呼びかけていきます。

【震災援助寄贈マーク】

運動参加校・団体以外の学校や企業、個人から財団に贈られてくるベルマークを寄贈マークと言います。大震災向けの寄贈マークは、3 月 20 日現在、仕分け集計した分で、延べ 13084 件、約 3223 万点になりました。このうち、まだ利用されない残高は約 1147 万点です。14 年度も被災校支援に役立てていく計画です。

震災から 3 年を経過した現在も寄贈マークは途切れることなく、財団に届いています。この中には仕分け・集計されていないマークもたくさんあり、全国の P T A などにボランティアで整理、集計していただいております。

当財団は今後も継続的に、マークの寄贈を呼びかけていきます。

(5) 教育援助事業

教育援助事業の中で、へき地学校援助については大震災の影響がまだまだ大きく残っていますが、全体的にはおおむね従来通りの支援を実施できました。

【へき地学校援助】

12年度と同様に30校分を被災したへき地学校への枠として、残り70校分をその他の都道府県に配分しました。70校に対しては1校あたり30万円相当の視聴覚機器やスポーツ用具などの教材、設備品を贈りました。大震災支援のための組み換えで、2011年度の援助方法を2年度続きで継承したものです。

またソフト援助事業、いわゆる出前授業ですが、一輪車講習会(9回)、理科実験教室(9回)、走り方教室(4回)、絵画教室(1回)、演劇公演(2回)の5事業を実施しました。

【特別支援学校援助】

養護学校20校、盲学校19校、聾学校15校の特別支援学校への援助と病院内学級4校の合計58校に、教材・設備品をそれぞれ贈りました。養護学校には30万円相当の、学校が希望する設備品を、盲学校、聾学校には全国校長会に相談のうえ、盲学校に携帯型拡大読書器、聾学校に教材提示装置を贈りました。病院内学級にはパソコンと自習用学習ソフトを贈りました。

【友愛援助・海外援助】

海外日本人学校の援助は2013年度、北米、欧州2か国の6校を対象に実施しました。支援額は80余万円でした。

また発展途上国の学校、図書館建設や保健教育活動などを支援する友愛援助は13年度、8事業で実施しました。ベルマーク財団の呼びかけによる「東日本大震災被災校への支援」事業を除く海外公募型では7事業が対象になりました。応募金額は36校から82万円が集まり、12年度(7事業)の43校、112万円をやや下回りました。

大震災支援をのぞく7事業への助成額は以下の通りです。

1. アフガニスタンの子どもたちへの保健教育活動(50万円)

公益財団法人ジョイセフ

2. ラオスでの学校図書室開設プロジェクト (100 万円)
特定非営利活動法人ラオスのこども
3. インドネシアでの「子供の森」計画事業 (150 万円)
公益財団法人オイスカ
4. 東ティモール・エルメラ県の小学校での保健教育普及プロジェクト (50 万円)

特定非営利活動法人シェア (国際保健協力市民の会)

5. タイ国境ミャンマー難民キャンプでの図書館活動 (50 万円)
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
6. ラオス寺子屋プロジェクト (50 万円)
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
7. カンボジアの農村での子どもの養育支援事業 (50 万円)
公益財団法人日本ユニセフ協会

【朝日のびのび教育賞・ベルマーク賞】

第 15 回朝日のびのび教育賞のベルマーク賞に、校舎の屋上で野菜作りを続けている東京都港区立青山小学校が選ばれました。2010 年から始まり、キュウリ、小松菜、イチゴなどを生産から販売まで、子どもたちに体験させるのが特徴。3 月 3 日に同小学校で賞の贈呈式があり、正賞の盾と副賞の活動奨励金 50 万円の目録を贈りました。

(6) 協賛会社・協力会社

協賛会社はマジックインキで知られる寺西化学工業 (ベルマーク番号 0 2) が昨年 9 月末に、さらにキリン・トロピカーナ株式会社 (同 4 7) と株式会社イーイーアイ (同 9 8) が今年 3 月末に脱退しました。3 社脱退で 5 9 社になりました。

- ① 寺西化学工業は 1 9 6 3 年に加盟し、ギターペイントやマジックインキにベルマークをつけてきました。半世紀に渡って協賛して頂きました。「最近の景気状況を踏まえての脱退」とされています。長年の協賛に対し感謝状を贈りました。
- ② キリン・トロピカーナは 2 0 0 9 年に参加。「トロピカーナ ホームメイドスタイル 1 L」や「フルーツ×フルーツ 2 5 0 m l」にマークをつけてきました。脱退の理由について「幅広い世代への社会貢献活動を模索するため」とされています。
- ③ イーイーアイは、2 0 0 6 年に参加、スマイルピースの名称で、インターネット

のお買い物ものにベルマークがついてくるという仕組みで運営されてきました。やはり、「最近の景気状況を踏まえての脱退」とされています。以上2社に対しても感謝状を贈ります。

3社合わせた年間集票点数から見込まれる運営費が125万円あり、加えて毎年の1社あたりの分担金225万円と寄付金10万円を合わせた、これら3社分の計約800万円が財団の収入から今後なくなります。これらのことを考え合わせると、協賛社の新規開拓は焦眉の急です。

協力会社の変動はありませんでした。

(7) 運動推進事業及び広報宣伝事業

【運動説明会】

ベルマーク運動巡回説明会は、毎年5月の大型連休明けから6月下旬に開かれますが、運動の趣旨や活動の進め方をPTAの新しい役員等に説明し、運動推進の意欲を高めてもらう良い機会です。2013年度は47都道府県の87都市・地域で93回開催しました。参加者は13825人で、前年よりも200人ほど増えました。

【ベルマーク一覧表】

運動参加校・団体にベルマーク参加商品を知らせるために作成。B4判、カラー刷り。作成数945万部。全参加校・団体に配布しました。

【ベルマーク手帳】

ベルマーク運動の仕組み、活動の仕方などをイラスト入りでわかりやすく解説し、協賛会社の参加商品や、協力会社から購入できる教材・設備品の情報なども紹介した参加団体のための手引書。B5判、カラー刷り。9万4000部制作しました。

【お買いものガイド】

B5判・カラー印刷で年2回制作。前期(4月)4万5500部、後期(10月)2万9000部、計7万4500部でした。

【ベルマーク新聞】

2013年度も例年通り、年4回発行いたしました。体裁はブランケット判でいずれも8ページ。発行部数は8~10万部です。東日本大震災に絡む内容のものが多くな

りました。被災校支援の実施内容、友愛援助寄付の応募状況、大震災寄贈マークの集まり具合など盛りだくさんでした。9月にスタートしたウェブベルマーク運動も取り上げて、被災校の継続的な支援に役立つことをアピールしました。

【ホームページ】

ベルマーク財団のホームページには月30万件から35万件のアクセスがあり、情報発信を強めるべく、東日本大震災の被災校支援の様子や子どもたちの反応など、素早い記事掲載、項目の増加に努めました。4月14日をもって、全面改訂を行い、格段に使い勝手が良くなりました。様々な情報がより早く、見やすく発信できるようになりました。

【ソフト補助事業・教育応援隊】

運動参加校・団体が応募できるソフト補助事業「教育応援隊」は4事業で実施しました。「ベルマーク版オーサー・ビジット」（日教販）、「スポーツ教室 走り方とサッカー」（ミズノ）、絵本に翻訳シールを貼るボランティア（シャンティ）、「理科実験教室 波のしくみと津波」（財団）です。

【大台達成校に感謝状等】

ベルマークの集票点数累計が100万点に達した参加団体には感謝の盾を、また50万点と、200万点以上には100万点刻みで感謝状を贈りました。

【新たな事業の発掘】

・ウェブベルマーク運動

インターネットで買い物をすると購入額に応じて、東日本大震災の被災校を支援する助成金が生まれる「ウェブベルマーク運動」が昨年9月始まりました。

当財団とは別組織の一般社団法人ながら、財団から2人の理事を出すなど、運動に深くかかわっています。登録会員数は5月20日現在、7428人です。万単位の目標数に比べてまだまだ少ないですが、ベルマーク運動のデジタル化に向けた将来事業としても、成功させるべく努力していきたいと考えています。財団への助成金は同日現在で、19万4212円です。

理事長は青山学院大学教授（環境政策）で、環境省の地球環境審議官を務めた小島敏郎氏です。また業務を執行する常務理事には博報堂MD統括局ディレクターの今宿裕昭氏が就きました。小島氏はウェブベルマークの発案者で、今宿氏は所属する博報堂をはじめ、朝日新聞社、当財団への働きかけを粘り強く続けて立ち上げを

主導した人物です。

・緑のバトン運動

被災地の広葉樹の苗木を各地の学校で育てて、被災地に贈って植樹する「緑のバトン運動」は今年度も継続します。国土緑化推進機構や朝日新聞社などの主催で、ベルマーク財団はこの苗木を運動参加校・団体でもベルマーク預金を使って購入できる仕組みです。1本500円で、協力会社の内田洋行からの購入。ベルマーク財団は今後もこうした他の企業、団体との協力、提携を視野に入れながら、ベルマーク運動の活性化を図っていきます。

以 上